

家族との時間

恵庭中学校3年 永原 詩音

「家族と毎日こうやって生活するのは人生の中の少しなんだよ。」

そんなことを小学校の時の先生が言ったのを今でも覚えている。しかし、当時の私は何も感じなかった。

「すこしってあと十年以上はあるよね。」

中学生になり、部活動や友達との遊びで家族との会話が少なくなっていた。姉は本格的にバイトを始めて、一日の中で一言も話さない日もあった。母が、

「ご飯食べに行くけど、一緒に行く？」

と聞いても私は

「いかない。」

と答える日が多くなった。「親とお出かけしたくない」と思うようになっていた。

三、四ヶ月ほど前、立ち眩みが多くなっていることに気づいた。調べてみるとどうやら私は軽い貧血のようであった。中学生になり体重も気になる年ごろ。少し食べる量を減らしたり、栄養が偏ったりしていた。そのことを母に話した。話したところで特に何も変わらないだろうと思っていた。しかし、

「もっと食べなさい。」

翌日、冷蔵庫をみると、鉄分入りの飲み物があった。貧血には鉄分が大切。これは家庭科の授業で習った。たまたまだと思ったが、次の日には鉄分入りのお菓子、飲み物が家にはあった。母に聞いたところ、

「貧血には鉄分が大切だからね。」

私のために用意してくれていた。その後も日に日に増えていく鉄分入りの文字。父や姉からの心配の声。「家族ってこんなに自分のことを想ってくれているんだ」そう思うと今までの自分の行動が少し申し訳なくなってしまった。何かしてもらっても感謝の言葉も言わず、「うるさい」「嫌い」なんて思うこともあった。その時、小学校の時に言われたあの言葉を思い出した。

「家族との時間は人生の中で少し。」

今は当たり前に出てくると思って食べるご飯。これもあと少しで当たり前ではなくなる。そして姉は大学生。卒業したら一人暮らしをする可能性が高い。毎日会うのが当たり前ではなくなる。そう考えると悲しくなった。家族との生活をもっとちゃんと考えるべきだ。そのためには毎日話をたくさんして、手伝いをして家族との時間を大切にしなければならない。しかし、この時期には反抗期が来る人も多し、もうすでに反抗期の人だっている。それは仕方がない。今の自分だって家族と出かけることが嫌に思うこともあるし、素直に感謝の気

持ちを伝えられないときもある。これからだって急にこの恥ずかしさ、むずがゆさが消えることはないだろう。

それでもそんなときには小学校の時に言われた言葉を思い出し、家族との貴重な時間を大切にしていきたいと思う。そして、大人になった時、今までたくさんお世話になった分何か恩返しをしたいと思う。